Network & Footwork

メディアハウスA&S Vol.27

•あけましておめでとうございます

A Happy New Year!

Bonne Année!

これまでの十年、これからの十年

二十一世紀も10年が過ぎ去り、新しい10年が スタートしました。今から十年前、世紀が変わった2001年に生まれた子、たとえばトヨタの子ども店長、加藤清史郎君は今年十歳、小学五年生となります。
過ぎていった十年はアメリカ同時多発テロで始まりました。この年のはじめにブッシュ大統領が就任し、日本では国民の圧倒的な支持により小泉内閣が発足してから十年です。
中国はその後の経済発展を支えるWTO（世界貿易機関）に加盟し、日経平均株価が1984年以来終値で1万円を下まわってから十年です。iPod、Windows XPが発表され、JR東日本がIC乗車カード「Suica」のサービスを開始してから十年です。

さらにもう十年さかのぼって、今から二十年前も見てみましょう。1991年、この年に生まれた人、たとえばゴルフの石川遼選手は今年成人となります。ソビエト連邦が崩壊し、イラクに対する湾岸戦争が開始されてから二十年。昨年自宅軟禁を解かれたミャンマーのアウンサンスーチーにノーベル平和賞が贈られてから二十年。
東京都庁が丸の内から西新宿に移転し、東北新幹線が上野から東京駅まで延伸し、SMAPがCDデビューしてから二十年です。

こうして振り返ってみると十年、二十年の大きな変化を認識すると同時に、そこに身を置いてきた者として時間の過ぎる早さも感じさせられます。

さて、新しい年が始まるにあたって、考えるべきはこれから十年をどう過ごすかです。たとえば、十年でどれだけ本を読むことができるでしょう。ここでいう本とは仕事のためのものや必要に迫られて読むものではなく、およそ実用からかけ離れた、読むことそのものを楽しむ古典や思想書といった類のものです。ためしに計算してみると、十年は月になおせば120ヶ月、月に二冊ずつ読んだとして全部で240冊。多いように思えますが、現実に仕事をしながら月に二冊は厳しい。月に一冊なら60冊。これでも多いように感じますが、本棚を確かめてみると、わずか一段。そうなると十代、二十代の頃に読まなければと思っていたシェークスピアも、吉田兼好もまだ読んでない、夏目漱石や森鴎外も読んだものもあるが、今の年齢だから理解できる内容があるはず。そう思うと読む本は厳選し、確実に読み進まなければと思います。

また、行こう行こうと思ってる映画館も年に二回程度がせいぜい。このペースなら十年で二十四本を見る計算です。DVDの棚でイメージしてみると、やはり少ない。これだけならば、そのときの話題作もいいけれど、やはり長く残っている名画も見ておきたい。

同じように、これらか十年、旅行で行きたいところは何カ所行けるのか。会おうと会おうと言って会わずにいる旧友たちとは何回会えるのか。長いように感じられる十年も、限られた期間であることには変わりありません。さて、みなさまは、新しく始まった時をどのように使いますか。

（飯田英明）

■高橋の取材ノートから

昨年お世話になりました関係者に心からお礼を申し上げます。本年も変わらぬご支援とアドバイスをお願い申し上げます。

◎社史・創業者伝

○昨年3月出版　株式会社ひでじま様　会長
　青木省治様著／代表取締役 社長辻伝治様発行　『創業七十周年記念　ひでじまの激動七十年のあゆみ－さらなる百年起業を目指して』の編纂に協力する。
「創業精神の相続」
http://takahashi-akiyo.jp/result/hidejima.htm

○進行中
　関東圏にある運輸倉庫会社様の50周年史を編纂に協力している。今年夏頃完成の予定。

○「創業精神の相続 社史・創業者伝」の中の「後継者へのインタビュー」更新
三幸社グループ　代表取締役　打越裕介氏
　同社はクリーニングマシンの生産販売がメイン事業で、約50%を米国マーケットで売り上げる。08年のリーマンショックに遭遇した時、打越社長や同社は危機に対し、どう向き合い、どう乗り越えていったか。決断と果敢なマネジメントの日々を3回連続で掲載。
「後継者へのインタビュー」
http://takahashi-akiyo.jp/interview/sankosha_1.htm

◎印象に残った方々、印象に残った話

○ ローカルデザイン研究会 （江戸川大学 鈴木輝隆教授　主宰）のセミナーに時々参加している。
「鈴木輝隆ホームページ」
http://www.edogawa-u.ac.jp/~tsuzuki/locald.html
その中から以下２つを紹介する。
（１）「小布施の歴史から学ぶ生命情報」（昨年7月開催）
　講師は株式会社小布施堂・株式会社枡一市村酒造の代表取締役　市村次夫氏。信越化学のビジネスマンから父親の逝去で、小布施（長野県）で家業の酒蔵と栗菓子業を継ぐ。同時に小布施の地域に江戸期以来息づいている商いの精神、旦那文化を掘り起こして、地元企業だけでなく行政も巻き込んだ地域の魅力ある景観づくりに大活躍の市村社長のみごとな活躍ぶりに圧倒される。市村家にはお上を頼まず、当主は「稼ぎ」（商売）と「おつとめ」(地域のボランティア)を両立させるのが当たり前という精神を脈々と受け継いできた。市村社長はこの精神をもって、いまも地方都市小布施の景観の魅力を世界に向かって発信している。
（２）「三十代が創り出した新しい仕事と組織」（昨年12月開催）
　講師はstudio―Ｌの代表取締役山崎亮氏。山崎社長とメンバーは「よそ者」として地域に入り込み平均５年間をかけて、兵庫県三田市の「有馬富士公園」、大阪府「泉佐野丘陵緑地」に市民参加型の来園者増加に取り組んだ。また、彼ら彼女らは鹿児島一の繁華街天文館で提携先の三越撤退に直面した丸屋を「マルヤガーデンズ」としてリノベーション（再生）を提案し手がけた。こちらも、たんにお客の来店増加ではなくお客自らが関心領域にアクティブに参加する流れを作り出し、話題を呼んでいる。
　彼ら彼女らは全メンバーが三十代というのも注目したい。依頼者が行政（公園等）であれ、丸屋のような民間であれ、彼ら彼女らは大胆かつきめ細かく住民や消費者が楽しみ参加する仕掛けを組み込む。住民と役所（管理者）、販売店とお客という既存の関係を超え、デザインにマネジメントを入れ継続する活気ある場を創出し、育てていくことが彼らのポリシーとスタイルである。いま話題の島、島根県壱岐郡海士町（あまちょう）など島起こしにもかかわっている。

○日本ガーター株式会社様
平成22年TAMA環境ものづくり大賞
～＜日刊工業新聞社賞＞
　以前、60年社史の制作をお手伝いした日本ガーター(株)様から、一般社団法人首都圏産業活性化協会（略称TAMA産業活性化協会）の環境モノPづくり事業で、上記の受賞をされたとの報告がありましたので、ここでご紹介します
　同社の取り組みは、CO_2排出量削減、廃プラスチック再利用、夜間電力の利用、照明のLED 化など種々の活動に取り組んでいて、環境対策の活動を「環境力見える化レポート」でまとめられています。
http://www.tamaweb.or.jp/wp/?p=1087

◎寄贈書籍から

○「発想回路～非常識を常識にしていくという発想」（千代田企画会議編　2011　非売品）
　元ワコールの広報部長三田村和彦氏からこの小冊子が届いた。毎年このグループからこの冊子をいただいていて、２２年目を迎えている。ことしの冊子はビジネスの現場で“発想を変えねば流れは変わらない”“非常識を常識にしていく発想”をテーマとする。問題点を「ガツン」と指摘し、短文で的確な打開策を示す。中味は濃いが、短文表現のスタイルがとても読みやすく毎年読むのを楽しみにしている。
「千代田企画会議」
http://www.senshu-g.co.jp/corporate/profile/gaiyou.php
三田村和彦氏の「現場イズム」もお勧めのビジネスコラム
http://workium.aidem.co.jp/webmagazine/

○「アジアで農業ビジネスチャンスをつかめ!」（カナリア書房刊　ブレインワークス近藤昇・ 三菱UFJリサーチ＆コンサルティング　畦地裕著）
　この書籍は昨年7月私のブログで取り上げた。近藤社長が12年前からアジアビジネスに注力してきたコネクションを活かし、現在の日本の農業のアジア進出サポートの活動をもとに書かれている。いろいろな分野で、農業への関心が高まっているが、今後の経済成長が見込まれるアジアに、日本農業の持続可能性を論じ、現地の取り組みレポートも紹介されている。

○「孤立死」（扶桑社刊　キーパーズ代表取締役　吉田太一氏著）
　吉田社長は「引越リサイクルショップ」開業後、2002年遺品整理専門会社キーパーズを立ち上げた。そこでの取り組みを通して得られた「孤立死の実態」が語る問題を分かりやく、でも真正面から取り上げている。他に「遺品整理屋は見た!」「遺品整理屋は見た!!天国へのお引っ越し」などの著作もある。講演活動も精力的に行っている。

高橋明紀代(m-haki@nifty.com)
「創業精神の相続」
http://www.m-h.co.jp/sougyou
「高橋明紀代ブログ」
http://blog.livedoor.jp/amane2

有限会社メディアハウスエイアンドエス
〒108-0071
東京都港区白金台3丁目16番10-709号
PHONE　(03) 3449-0785
FAX　(03) 3449-0736
m-hmail@nifty.com
http://www.m-h.co.jp/